

## 平成28年度海外派遣教員を励ます集い

平成28年2月27日（土）

平成28年2月27日（土）に標記の会が、岡山アークホテル1Fレストラン「ラ・ペーシュ」で開かれました。岡山駅の近くで、便利が良く、貸し切りでも良心的な料金のため、本会の行事としておなじみの会場です。今回の派遣者は3名と、例年に比べますと少ないのですが、少数精鋭で岡山県の代表として頑張ってきてほしいと思います。それでは、以下に会の様子をお知らせいたします。



### 1 会長あいさつ

薄茂樹会長が、3名の先生方の派遣先と現在の勤務校を紹介の後、挨拶をされました。

「3名の先生方、本当におめでとうございます。今現在、船便や航空便の準備や、勤務先の事務処理などで大変お忙しいのではないかと思います。私も帰国して十数年が経ちました。息子が5歳、娘が3歳のときでした。右も左も分からないままの勤務で本当に不安でしたが、日本に帰国の頃にはこの国にずっと住んでもいいと思えるほどになっていました。先生方には3つお願いがあります。1つ目は現地で暮らす子どもたち、また保護者の方々のために十分に先生方のお力を発揮して欲しいのです。2つ目は健康第一です。お子様や奥様も含め、お気を付けてください。とにかくお元気で帰国されることを祈っております。3つ目は岡山県の国際理解研究会を盛り上げていただきたいと思います。派遣された途端連絡が途絶える方もおられます。ぜひ、現地からのレポートやご帰国後の帰国者発表などもよろしくお願いいたします。」



### 2 励ましの言葉

都築勉前会長に派遣者への励ましの言葉をいただきました。

「私は25年前にシンガポールでの勤務をしておりました。今現在は退職しております、ユネスコのお手伝いをしています。当時の文部省の面接では、試験官から『あなたはどうか

して今の時期に行こうと思ったのですか』と聞かれ、『そこに住む子どもたちに日本と同等の〜』などと答え、的外れな答えを言ってしまいました。後から思い返せば試験官は『今の経歴を捨てていくことになるのですよ』と質問したのではないかと思っています。確かに3年の勤務は私の経歴を切ったかもしれませんが、在外派遣の3年間は私の教職に非常に意味を為すものになったのは確かです。それは我が子にも言えることで、上の子にとっては特に大きかったと思います。反対に下の2歳の子にとっては訳の分からないことだったと思います。例えば理科（特に植物など）です。日本に帰国して、柿の木を見せて『あれは何』と聞くと『マンゴスチン!』と答えました。しかし、日本であれば経験していることが抜けてしまうことは仕方ありません。向こうで経験したことを生かす前向きな考え方で今回の赴任に臨んで欲しいと思います。当時のシンガポールで日本の放送は週に一時間だけでした。ただし、近所のスーパーで日本のビデオを借りることができたので、そこはいつも盛況でした。今はネット環境が整えられ、リアルタイムに情報が入ります。それも大切なことですが、気を付けて欲しいのはそれに頼るのではなく、現地の情報を自分の目と耳でしっかりと掘り下げてきてほしいのです。派遣されたらしっかり楽しんでください（特にご家族の皆さんは!）それでは元気でやってきてくださいね。」



### 3 乾杯

「私の派遣先での3年間は人生の中で最も輝いていた瞬間です。そこで気付いたネットワークはかけがえのないものとなります。派遣教員の皆さん、これから大きく羽ばたいてください。そして楽しんでください!」

と、派遣される先生方のご健康と活躍を祈念して、服部誠支部長が乾杯のご発声をしてくださいました。



#### 4 派遣者から一言

##### 安良田 麗先生

安良田先生は、赤磐市立山陽西小学校小学校からバンコク日本人学校へ派遣されます。

「きっかけは日本人学校に勤務しておられた先輩方から聞いたお話でした。また、テヘランに派遣されていた大河原先生からお話をお聞きしたことも『自分もやってみたい』と夢をもつように後押しをしてくれました。子どもたちに夢をもちなさいと指導していますが、『先生も夢を叶えたよ』と伝えたいと思います。私は派遣されるために、たくさん勉強をしてきました。バンコクにいる子どもたちが安心できる学級作りをしていきたいです。そして私がつけている力を子どもたちに伝えていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。」



##### 高原 清史先生

高原先生は、赤磐市立山陽小学校から北京日本人学校へ派遣されます。

「同じ地区から 2 人も派遣が決まり驚き、また、頑張ろうという気持ちがわいてきました。私は初任校が北海道で、そこで帰国者報告会に参加しました。その中でたくさんの日本人が海外に住んでいることや、たくさんの写真も紹介されて『なんて素晴らしい職場があるんだ、いつか行きたい』と思うようになりました。しかし、我が子のことや環境などもあり、すぐには決められません。39 歳、ぎりぎりのラインで妻と話し合い、決断しました。12 月に校長に呼ばれ、北京と告げられました。そのとき大気汚染に関する赤色警報のことがニュースで頻繁に繰り返されているのを見ていたので、びっくりしたこともあり思わず笑ってしまいました。しかし、どこでも行こうと思っていたので頑張ろうと決意を新たにしました。大気汚染、反日感情など不安もありますが、先輩教員の方々からのアドバイスで安心したところも多々あります。楽しみながら家族で頑張りたいと思います。先日北京の小学校から自己紹介文を、ということで『晴れの国岡山から来た高原です。太陽のように皆を笑顔にしたい。』と書きました。見た目はやせすぎで、『大丈夫?』とよく聞かれますが、空気にも負けず頑張ってきたと思います。」



お子様お二人も元気に自己紹介ができました。奥様からも

「私も小学校に勤務しており、現在16名の複式学級を担任しています。地域も温かく、保護者にも恵まれています。共働きのために寂しい思いをさせている子どもたちと一緒に過ごせることが嬉しいです。3人分のお弁当作りを頑張り、少しでも主人をふっくらとさせることができたらと思っています。また、平成23年度派遣の大河原先生には私の学校へゲストティーチャーとして来ていただき、国際理解のお話をしていただいたことがあります。以前のイランに対するイメージは怖いということが先行していましたが、お話を聞いてからはイランに行ってみたいという子も増えました。私も北京・・・というイメージではありましたが、熱く語れるようになって戻ってきたいと思えます。」と力強いお言葉をいただきました。

#### 虫明 ちかこ先生

虫明先生は、矢掛町立小田小学校からバルセロナ日本人学校へ派遣されます。

「お忙しい中、このような壮行会を開いてくださり心より感謝いたします。きっかけは2年前の研修で一緒した先生にいただきました。教育にかける熱い思いを語られるその先生の姿はとても輝いていて、自分も行ったらあんなステキな先生になれるかなと思ったのが始まりでした。その思いを校長に伝えたら『分かった。だが今年は待ってくれ。』とのことで次の年。また『今年も待ってくれ。』と言われ、これ以上は待てませんということで受けさせてもらいました。いろいろな先生方からのアドバイスを受け臨んだ面接。うまく答えられない自分と、圧迫面接（天候悪化の稲妻付き）で完全に落ちたと思って聞いた文科省からの結果報告。『行くことになったぞ』との朗報でした。どの派遣者もすごい方ばかりで、あと数ヶ月で自分に何ができるのかと考えました。自分ができること、それは子どもたちと向き合うことです。自分の生きている時間を子どもたちに使いたいと思います。海外も初めてなのですが自分にとって大きな転機になると思います。あと41日。船便を明日出します。しっかりと2年勤め上げて帰ってきたいと思います。」



## 5 閉会あいさつ

閉会のごあいさつを岡本久美子先生よりいただきました。

「現在は情報が駆けめぐる時代です。しかし、日本にいたら入ってくる情報も現地ではもれる事もあります。そのため、帰国したら浦島太郎と感ずるのではないのでしょうか。ただ、在外派遣は出張がないのがよいと思います。その時間を授業や教材研究に費やせます。その反面、研修はできません。自ら研修を設定し成長して欲しいと思います。私は年2回この会に出席させていただいておりますが、本当にドイツにいたのかと思うくらい忙殺の日々を過ごしています。しかし、東京出張に行くと当時の派遣者が集まってくれるなど、この派遣は人間関係を広くしてくれます。たった2年または3年ではありますが、とても大きな事でもあります。今回の派遣先である3都市とも訪問したことがあります。どこも最高の場所です。皆様方のご健康とご活躍を祈念しまして閉会の挨拶とさせていただきます。」

